

# 令和4年度（2022年度）行政評価シート

令和4年7月27日

評価者	都市整備部長 森明彦
-----	------------

## ○ 施策の概要

総合計画上の位置付け	分野	5-(6) 下水道・河川	施策の方針	5-(6)-①下水道の整備・管理
目標とするまちの姿	下水道施設は、計画的な改築・更新が進められています。また、災害時にも下水処理が継続できる体制の確保や浸水対策などにより、安定した下水処理が可能となっています。 終末処理場で発生する処理水や汚泥等は、再利用や資源化され、環境負荷の軽減も図られています。			
主な取組	(1) 下水道施設の整備・管理 公衆衛生の確保、海や河川の水質汚濁防止に向け、事業計画区域内での公共下水道の整備完了を目指すとともに、「下水道ストックマネジメント計画」に基づく計画的な点検・調査・改築・更新を行います。 (2) 浸水対策の推進 浸水対策として雨水貯留施設の設置を進めるとともに、雨水排水施設の修繕や浚渫・清掃などを行い、施設を良好な状態に保つよう維持管理を行います。 (3) 下水道施設の災害対策 下水道BCP(業務継続計画)の運用により、災害時にも安定した下水処理ができる体制を整えます。また、下水道施設の耐震化を図るとともに、津波対策として持続型下水道幹線再整備を進めます。 (4) 下水道資源の有効活用 引き続き下水汚泥等の資源を有効活用するとともに、終末処理場などの下水道施設上部を市民に開放するなどの有効活用を進めます。			

## 1 成果指標

成果指標①	公共下水道(汚水)整備率					出典	所管課調べ		
初期値	単位	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	備考
平成30年度	%	目標値	97.8	97.9	98.0	98.1	98.2	98.3	
97.8		実績値	97.8	97.8					
		達成率	100.0%	99.9%					

  

成果指標②	公共下水道(雨水)整備率					出典	所管課調べ		
初期値	単位	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	備考
平成30年度	%	目標値	77.8	78.0	78.2	78.4	78.7	79.0	
77.6		実績値	79.3	79.3					
		達成率	101.9%	101.7%					

## 2 投入コスト

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	6,134,236	6,297,642				
人件費	372,197	370,783				
<b>総事業費</b>	<b>6,506,433</b>	<b>6,668,425</b>				

### 3 担当部評価

#### (1)「施策の方針の成果指標」の達成状況等を踏まえた施策の達成状況の分析

##### 都市整備部

成果指標②「公共下水道(雨水)整備率」については、令和2年度の下水道(雨水)事業計画の見直しにおいて、都市緑地整備事業(広町緑地、台峯緑地)による整備面積分を加えたことで、実績値が目標値を上回る結果となった。よって、今後の目標値については、令和2年度の目標値を実績値と同値とし、令和3年度以降は、0.2%の値(提示している上昇値と同値)を年度ごとに上昇する値とすることとする。

#### (2)今後の方向性

##### 都市整備部

公共下水道(汚水・雨水)整備率を今後も目標値に近づけていくよう努めるとともに、汚水管などの補修、機能維持を図り、市民生活の利便性を確保するよう努めていく。

公共下水道(汚水・雨水)施設の老朽化が進行しているため、修繕・改築を進めていく。

鎌倉処理区の幹線管渠及びポンプ場の老朽化対策と地震・津波対策として、幹線管渠を地中の深い位置に自然流下管として再整備することを進める(持続型下水道幹線再整備事業)。

七里ガ浜、山崎浄化センター、汚水中継ポンプ場及び雨水調整池等90箇所を超える下水道施設は老朽化が顕著である。このため、ポンプ場は持続型下水道幹線再整備事業を見据え、将来廃止も視野に入れた維持管理を、両浄化センターは耐震化を行った上で、ストックマネジメント計画を基に、今後、国庫補助を活用しながら改築・更新を進めていく。

下水道が有する資源やエネルギーの利活用を図るため、技術革新や導入コスト低下などの動向を把握しながら、関係機関と共同し、再生水、下水熱の活用に関する調査・検討を行っていく。

下水道占用料の賦課を含め、適正な事務執行に努めていく。

#### (3)施策の方針にひもづく事務事業の評価結果

重点事業	整理番号	事業名	法定受託事務	事業費(千円)	人件費(千円)	総事業費(千円)	事業評価	貢献度	最終評価
	都整-09	下水道事業(企業会計)		837	7,587	8,424	現状維持	A	現状維持
	都整-21	下水道事業(企業会計)		4,188,500	137,431	4,325,931	拡充	A	拡充
	都整-24	下水道事業(企業会計)		313,163	70,883	384,046	現状維持	A	現状維持
	都整-32	下水道事業(企業会計)		7,203	59,179	66,382	現状維持	A	現状維持
	都整-34	下水道事業(企業会計)		1,787,939	95,703	1,883,642	現状維持	A	現状維持

#### (4)貢献度に関する分析

##### 都市整備部

「都整-22(下水道経営課)」については、発災時にも下水処理が継続できる体制を確保することを目指し、持続型下水道幹線の検討を進めた。また、浸水対策に必要な内水浸水シミュレーションの実施に向け、仕様の検討を行った。さらに、終末処理場で発生する処理水について、再生水としての活用の検討を行うとともに、汚水管渠内の下水熱について調査・研究を行った。以上のことから、施策の方針の達成に対する貢献度を「A」とした。

「都整-25(下水道河川課)」については、下水道施設の長寿命化及び耐震化を図るため、計画的に改築・改良を実施した。また、台風や大雨による溢水や洪水等の被害を未然に防ぐため、雨水排水施設の修繕工事を行うとともに、要望対応処理を含む施設の修繕・浚渫等を行った。以上のことから、施策の方針の達成に対する貢献度を「A」とした。

「都整-35(浄化センター)」については、下水道施設を計画的に改築・更新を行う等適切に維持管理することで良好な水質環境を保ち、快適な市民生活に貢献している。以上のことから、施策の方針の達成に対する貢献度を「A」とした。